

【65 周年記念事業】金城太一参事官講演会が開催されました

10月28日、ワシントン日本語学校に在アメリカ日本国大使館の金城太一参事官（教育担当）をお招きし、「大使館における教育分野の取組と在外教育施設に期待すること」と題して講演会が開催されました。本講演は創立65周年記念事業の一環として行われたものです。金城参事官は文部科学省のご出身で、学習指導要領の改訂をはじめ教育現場での様々な政策や課題に従事してこられました。当日は会場の4階図書室に多くの保護者が集まり、盛況な会となりました。



金城太一参事官

講演会では、大使館での教育分野の主な取り組みとして支援している[JETプログラム](#)（The Japan Exchange and Teaching Program）と、国費留学生について詳しくご紹介いただきました。JETプログラムは国際交流や外国語教育に携わる海外の人材を日本に招致する事業で、金城参事官によると、本校の在校生にも将来ぜひ参加してもらいたいとのことでした。日本留学やJETプログラム参加者、親日家・知日派と協力し将来の日本留学などの裾野を広げるべく、現地校での日本語教育の支援や日本語教師会との連携を図るなど、日米相互の交流活動を活発化させるための推進事業についてもお話ししてくださいました。



補習校での学びを次のステップにつなげてほしいと語る金城参事官

本校保護者の関心の高い話題といえば、やはり日本語を学んだ先のビジョンについて。金城参事官は、日本政府の方針のほか、日本の大学で学ぶメリットや日本企業の雇用状況など、詳細な資料を交えて説明してくださいました。在外教育施設の重要性及び補習校へ期待することとして挙げられたのは、補習校ならではの教育実践と日本文化の発信拠点としての役割です。また、その実現のためには大使館も協力を惜しまないと心強いお言葉をいただきました。金城参事官は、子供たちは「日米の懸け橋となる高度グローバル人材の原石」であり、補習校の学びの中で日本語を習得するだけではなく、日本文化・社会性・協調性などを総合的に学ぶことが将来のプラスになると強調。

現地校との両立は容易ではないが、学習指導要領に定められている「学びに向かう力・人間性の育成」にもつながること、不透明な時代を生きるうえでの大事なスキルを学んでいることなど、子供たちの後方支援を続ける保護者を労いつつ励ますメッセージもくださいました。講演会で使用されたプレゼンテーション資料は、本校ウェブサイト[保護者ページ](#)> 家庭学習を応援（要パスワード）> 保護者向け講演会資料一覧 にアップロードされていますので、ぜひご覧ください。

質疑応答時には、日本語補習校の課題や大学進学についての質問・要望が多数ありました。「日本に留学した学生のネットワークを充実してもらいたい」「日本の大学のSTEM分野で海外留学生や帰国子女生をもっと受け入れてもらいたい」といった要望も出ていました。講演会后、管理運営委員会に届いた感想の一部をご紹介します。

日本の教育システムの中での補習校の位置付けなど、興味深いお話でした。（中2、小4、小1保護者）

日米間の留学プログラムについて知ることが出来ました。（小2保護者）

国際感覚を身に付けるというのは単に語学力だけの問題ではなく、文化、習慣、価値観などの理解が大きく関わってくるので、長い時間をかけてそういう日本の習慣や感覚を積み重ねていける補習校での体験は子供たちにとって今後の財産だと感じました。（中1保護者）

国際交流に向けて、日本から海外への留学・派遣だけでなく、海外から日本への留学・派遣等にも政府として力を入れている、今後も強化されることを知り、安堵の気持ちと日本の将来への期待が持てました。（高1保護者）